

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2773302159		
法人名	株式会社 小池介護サービス		
事業所名	グループホーム天下茶屋		
所在地	大阪市西成区天下茶屋2-18-32		
自己評価作成日	平成 24年 4月 10日	評価結果市町村受理日	平成 24年 8月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2773302159&SCD=320&PCD=27
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 24年 6月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安心して生活して頂けるよう支援し、家族様、地域の方、職員が共に利用者を支えあっていけるよう常に心がけています。主体性を尊重しその人らしい生活が送れるよう努めています。ホーム内は明るく常に清潔を保ち居心地のよい場を提供できるようにしています。馴染の職員が介護にあたり安心と信頼を得ています。医療連携のもと健康の維持と異常の早期発見ができるよう協働しています。

事業所理念は法人の理念を基にして地域密着型サービスの意義をふまえて職員で話し合い、ホーム独自で「楽しく暮らす」を理念として作り、職員間で共通認識を基に実践に取り組んでいます。ホームの玄関は道路から奥まった広い駐車場スペースを通った所にあり、駐車場の広いスペースは利用者の外気浴の場や、サンドウィッチやハンバーガーを食べる場所としても活用し、「ピクニック気分が楽しい」と利用者の思いに寄り添った支援を実践しています。また、緊急災害時には地域の一時避難場所として提供する体制を作るなど、地域に開かれたホームを目指しています。法人本部との連携は密に行い、いつでも協力が得られる体制はできています。法人内のグループホーム間の交流を通して地域の情報を共有し、お互いのケア向上に前向きに取り組むホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔がいっぱいのホーム」「主体性を尊重しその人らしい生活が送れるホーム」「地域の方と共に家庭的な安らぎのある生活をして頂きます」以上の運営理念のもと安心して生活でき、楽しく暮らせるホーム作りに向け職員と共に共有し実践に取り組んでいます	グループ法人の理念「笑顔がいっぱいのホーム」「主体性を尊重しその人らしい生活が送れるホーム」「地域の方と共に家庭的な安らぎのある生活をして頂きます」を掲げ、事務所に明示しています。事業所独自でも、地域密着型の意義をふまえた理念を、職員で話し合い、「安心して生活でき、楽しく暮らせるホーム作り」を理念として作り、職員間で共通認識して実践に取り組んでいます。今後は日々の申送りや合同職員会議の際に確認し、全職員に浸透するような機会を設け、職員間の認識を高める方向で検討しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、総会や定例会へも参加しています。自治会の地域活動にも積極的に参加させていただき地域住民の一人として交流を深めていけるよう努めています。 ホームの行事等は会長を通じ地域の方に参加していただけるよう案内しています。	地域の自治会に加入し、利用者一人ひとりが町内会のメンバーになっています。利用者の状態により町内会の清掃活動には参加ができにくくなりましたが、年末の夜警には職員が参加しています。また、地藏盆には職員がお供えを持ってお参りに行き、地域との関係が途切れないよう交流を図っています。今後は、「他の行事での地域交流」を自治会長と検討して行く予定です。職員は利用者と一緒に月1回の「地域ふれあい喫茶」に参加するなど、地域住民との交流の機会を増やせるように取り組む予定です。地域には独居の高齢者も多いため、今後は近隣の方に認知症の勉強会の開催など、ホーム側から積極的に働きかけていく方向です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	自治会定例会や地域行事に参加し認知症の方を理解していただけるよう努めています。また自治会長から助言や相談等にも答えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は地域包括支援センター、職員、自治会役員、家族様の参加のもと2ヶ月毎に開催し参加者からの質問、意見、要望を受けサービスの質の向上につなげるよう職員間で話し合い共有しています。	運営推進会議の規約を作成し、会議は地域包括支援センターの職員、家族、利用者、職員が参加し、2ヵ月に1回開催しています。会議では利用者の状況・活動報告、行事・研修報告、今後の予定、ホーム全体のケアテーマなどの意見交換を行っています。会議内で家族から要望があり、地域交流支援につながった事例があります。参加できなかった家族には議事録を郵送し、職員には回覧して共有した認識を図っています。今後は、参加できていない職員にも運営推進会議で話し合うことについて、意見が出せるように工夫していく方向です。	参画メンバーである新自治会長または、婦人部長が会議に参加できていない状況です。役員等の交代の際には、運営推進会議への参加を働きかけてはいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の担当ケースワーカーとは相談しやすい関係づくりに努め家庭訪問時は必ず管理者が同席し利用者の暮らしぶりを伝え連携を深めています。	月1回、区の担当者やあんしんさぽーと事業（日常生活自立支援事業）の担当者の訪問があり、相談・連携はできています。「テレビの地デジ放送が受信できるようにして欲しい」と利用者の要望で、あんしんさぽーと事業担当者と相談し、テレビの購入に繋がった事例があります。市には外部評価結果や運営推進会議録を提出し、報告を行っています。区のグループホーム事業所連絡会の会場として提供し、事業所の意見交換を行い、他のホームとの職員の交流やお互いのホーム訪問などに取り組んでいます。今後はグループホーム事業所連絡会を通して、区や市の担当者との連携を深め、地域推進会議等への参加も働きかけていく方向です。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束ゼロへの取り組みを行い身体拘束廃止研修にも参加しています。 研修に参加できなかった職員には内部研修等を行い全ての職員が理解し取り組んでいます。	身体拘束のマニュアルを作成し、半年に1回、身体拘束廃止委員会を開催しています。家族には、必要な場合、説明をして同意が得られるよう準備しています。職員は年2回研修を行い、全職員が研修報告レポートの提出の対象としています。研修に参加できなかった職員とも研修の意義を認識し、理解を深めるための工夫をしています。玄関は内側からのみ施錠しています。1階は体操や洗濯物干しなど、2階はぬり絵や貼り絵、書道などの合同レクレーションを行い、利用者は1階と2階を自由に行き来ができるように支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は高齢者虐待防止研修に参加し、高齢者虐待とはどういったことなのか学ぶ機会を持ち、日々ケアにつなげています。 職員には自己行動を振り返る機会を持ち、また職員間でお互いをチェックし合える機会を持つよう努力しています。（虐待防止研修等） 職員にはストレスケアの為、日帰り旅行、懇親会を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度への理解を深めるよう研修等に参加し学ぶ機会を作っています。 安心サポートを利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には十分な説明を行い理解を得ていただけるよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会では要望、意見をうかがう機会を設けています。玄関には意見箱を設置し、運営に反映させています。	意見箱は玄関に設置していますが、面会簿カードに意見・苦情等の記入欄を設け、家族からの意見や要望を聞き取っています。3ヵ月に1度は「利用者情報提供書」や「スマイルだより」「写真」などを発送し、利用者の生活状況を家族に伝えています。「利用者情報提供書」には家族の要望や意見を聞く欄を設けて、家族からは感謝の言葉と共に日々のケアに対する要望や意見などを頂いています。要望の記載があれば運営に反映できるよう、職員間で話し合い取り組んでいます。「地域行事に参加して地域との交流の機会を作りたい」との家族の要望で支援につながった事例があります。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設全体会議やフロアー会議等で職員からの意見や提案を聴く機会を設け職員の現場の声や気づきを施設運営に反映させています。	事業所の合同会議、各フロア会議をそれぞれ月1回開催し、管理者は職員から意見を聞く機会を設けています。新規利用者の受け入れ時は、職員と話し合い受け入れフロアを決めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう研修等にも参加できスキルアップができる職場環境を作り、昇給、資格手当、勤務内での外部研修参加、休憩時間の確保等行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受ける機会を設け職員の技術や知識向上の為の支援作りをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西成区グループホーム連絡会を設け定期的な管理者会議を行っています。相互訪問に他のグループホームの行事への参加を通じ自己のサービス向上に反映しています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望や不安などに耳を傾け安心して生活していただける環境と関係を築けるよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接で家族様、利用者が困っていることや不安な事、要望等聴き入居時に不安がないよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、入居時に利用者と家族様が何を必要されているのか見極め他のサービス利用も含めた対応ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の経験や体験により得意とする事を理解し、共に支えあっていけるような関係を築けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者と家族様の関係を支え家族の絆を大切にする為いつでも訪問して頂け、共に支えていけるようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人等の面会も多く気軽に立ち寄っていただけるよう努め、電話や手紙のやりとりの支援、手紙の代筆支援を行い関係が途絶えないよう支援しています。	近隣からの利用者もいて、同じ町内会の友人・知人が訪ねて来やすい雰囲気になっています。友人や知人が面会にきて談笑される利用者がいます。散歩には馴染みの商店街や知り合いの店へ行き、お店の方と挨拶や声かけをする方もいます。職員が同行して月1回は馴染みの美容室に行く方や、馴染みの店で化粧品や毛染めを購入する方など、本人の気持ちを大切にしてお互いの関係が途切れないような支援を行っています。会話の中で聴き取った本人の思いは職員間で共有しています。「家族に会いたい」という利用者の希望で、家族が入所する施設を職員も同行して訪問し、親子の関係が途切れないよう支援しています。日常のケアの中で「あびこ観音が懐かしい」と聞き取り、馴染みの住職を訪問し、歓談され喜ばれた方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立してしまわず良好な関係が作れるよう職員は配慮し、利用者同士が支えあえるよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用（契約）が終了しても必要に応じ経過フォローを行い相談支援に努めています。 状態の悪化により（病院管理が必要）退所された方が、状態回復され、ご本人、家族様の希望により、再度入居されたケースもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの利用者の暮らし方の希望を把握しケアに活かし、思いを伝えることが困難な利用者には日々の行動、から思いをくみ取り支援に活かせるよう努めています。	職員は、日々の会話の中で本人の思いや希望を聞き取っています。言葉で伝えられない利用者には仕草や表情から推測し、思いを感じ取るようにしています。調理の準備や庭の菜園の水やり、汚物を包むための新聞紙を折りたたむなど、一人ひとりが役割を持って生き生きとした生活ができるように支援しています。共有スペースは禁煙になっていますが、喫煙する利用者には非常口の近くに喫煙コーナーを設けています。天気の良い日は職員が付き添い、外のベンチで外気に触れながら会話する機会を作っています。	職員は利用者一人ひとりとふれあう時間も多く、本人の思いや希望、日々の生活の聞き取りも行っています。しかし、生活記録には蓄積されていない状況です。今後は、日々のケアの中で新たに把握した利用者の望みや思いを追加記録し、全職員で情報が共有できるよう、工夫をされてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用の経過等を利用者に関わられていた方から聞きこれまでの暮らしを把握し、支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝定時にバイタル測定しその日の体調や状態を観察して利用者のペースに合わせて一日が過ごせるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本位のケアプランとなるよう心がけ関係者と話し合い日々の関わりの中で利用者の思いや意向を反映させたケアプランとなるよう努めています。	計画作成担当者は本人の希望にそった介護計画が作成に努めています。アセスメントは年1回、カンファレンス会議は月1回実施し、関係者で話し合っ て介護計画を作成しています。モニタリングは3ヵ月毎に行い、その都度見直しをしています。「ホームで健康に暮らしたい」という本人の希望で、毎日のバイタルチェックを計画に取り入れ、支援している方がいます。	カンファレンス会議やモニタリングを行い、本人の思いや関係者からの意見を聞き取っています。しかし、介護計画に反映されていない状況にあり、今後は、モニタリングの結果を更新時のアセスメントに活用し、記録を充実させ、介護計画に反映されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等個別に記録し、変化や気づきがあれば、申し送り表を活用し、職員間で共有し実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のニーズに対応できるよう柔軟な支援、サービスに取り組んでいます。 系列ホーム合同での、各ホーム利用者1名ずつ参加の遠足も始めました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている行事等に参加し、交流がもてるよう支援しています。地域開催の花見に行き交流する機会を設けています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前から通院されていた馴染みの病院に通えるよう支援し、必要な場合は専門医へ受診して頂いています。	母体法人の医療機関と連携をしています。内科の往診は月2回、歯科往診は週1回あり、利用者の健康管理を行っています。看護師の訪問は週1回あり、ケアの指導や医療相談ができる体制になっています。看護師による研修は年1回実施し医療全般と個別の事例について学ぶ機会となっています。他科受診の際にはホームより情報提供を行い、家族の協力のもとに受診できています。アルコール依存症外来や精神科の受診に、職員が同行した事例があります。利用者の受診情報はその都度家族へ報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療提携により看護師の訪問を受け介護職員は利用者の体調の変化や情報を伝え看護師、介護職員と協働し適切な医療が受けられるよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の病院へ情報提供し利用者が安心して治療できるよう支援しています。 入院中も状態の変化がわかるよう連絡を取り早期に退院できるよう連携しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに対する指針を作成し、入居時家族様等に同意を得ています。 ターミナルケアについても医療連携が取れるよう体制作りを行っています。	重度化や終末期に向けた指針を制定し、家族には入居時に同意書をもっています。夜間の緊急時には救急車での搬送体制のマニュアルを作成し、24時間対応の病院の連絡先を事務所に掲示して、全職員は共有認識しています。看取りを行う体制も準備し、家族の宿泊にも対応ができる部屋を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて職員は医療連携看護師から初期対応できるよう指導を受けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し年2回自主訓練を行い内1回は消防署立ち合い訓練を実施しています。 運営委員会で地域の方と共に災害に備え話し合いお互いに協力体制を取っています。 非常食等も準備し災害時に備えています。 (スプリンクラー設置済)	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施しています。内1回は消防署の指導のもと訓練を行っています。自主訓練の際には近隣の住民の方にも声をかけて実施しています。非常口は非常時には自動的に鍵は解除され、外の通路も広く玄関の横に直接つながっています。ホームは緊急災害時には地域の一時避難所になっています。非常食として水、カップラーメンを準備しています。緊急災害時用の備蓄は今後各フロアで保管し、持ち出し可能な状態にしていく方向で検討しています。	緊急避難時の避難場所の提供、自主訓練の際は近隣の住民に声かけをしますが協力が得られない状況があります。今後は自治会の新旧役員の交代の際にはホーム側から働きかけ、協力が得られるように工夫されてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護マニュアルを作成すると共にプライバシー保護についての研修を行い、秘密保持の徹底に努めています。	マニュアルを作成し、年1回は研修を行い職員全員で共有認識しています。職員は利用者一人ひとりの人格を尊重して、やさしい言葉かけを行い、明るく丁寧に対応しています。職員は、排泄確認の際、利用者にさりげなく確認し、和やかな雰囲気ですぐ声かけ、本人の誇りを損ねない対応を行っています。今後は、研修以外にも「プライバシー保護や個人情報保護」について職員間で共有し、認識を高めて行く方向で検討しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を尊重し自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせその日の暮らし方を一緒に考え支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理容、ヘアカラーを希望される利用者へは職員が介助し支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食ホーム内で手作りし、利用者と共に準備、片付け等行い、職員は利用者と同じものを一緒に食べ、食事介助が必要な方をサポートしています。	食事は3食ともホームで調理しています。メニューは職員で意見を出し合って決め、交代で作っています。買物は利用者との散歩の時間を活用し、利用者と一緒にメニューを考え、職員は本人が食事作りから参加できるように工夫しています。にんじんやジャガイモの皮むき、食器の後片付けなど自分の役割を持っている方もいます。好き嫌いは本人への聞き取りで把握していますが、食事の残り物にも気を配っています。本人の嫌いなメニューの時は、個別に変更したメニューで対応しています。時には回転ずしなど、外食を楽しむこともあります。天気のいい日は外の駐車場のスペースでハンバーガーやサンドウィッチなどを食べる日を設け、「ピクニック気分で楽しめる」と利用者に喜ばれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外食やときにはファーストフード等もメニューに取り入れ食を楽しんで頂いています。 1日の食事量、水分量が把握できるようチェック表で記録しています 水分が苦手な利用者には、お茶ゼリーやトロミをつけ工夫しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと週1回の歯科往診により口腔内の清潔を保持しています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、各利用者の排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を行って頂けるよう声掛けしています。 トイレでの排泄の際には、各利用者の残存能力を活かしつつ、安全な排泄介助が行えるようにしています。	排泄チェック表を作り、行動パターンを把握しています。夜間オムツを使用する方も日中はリハビリパンツとパットを使用し、可能な限りトイレで排泄ができるように3時間毎のトイレ誘導を試みています。排泄に失敗した時はさりげなく声かけを行い、居室やトイレに誘導しています。トイレの便器の前に季節の歌を貼って職員と一緒に歌うことで、落ち着いて便座に座ることができ、排泄が行えた方がいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、水分チェックも行い、一日の水分摂取量の把握に努めています。水分摂取が取れにくい方にはお茶ゼリー等で工夫し摂取して頂いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴して頂けるよう支援し、入浴を好まない方には時間を置き何度か声かけし工夫しています。 入浴を楽しめるよう入浴剤や季節風呂等を用意しています。	入浴は週3回、個別浴で行っています。お湯は利用者毎に入れ替え、1日おきに入浴される方もいます。希望があればシャワー浴や足浴も行う体制があります。車椅子の利用者にも複数の職員で対応し、入浴を楽しんでもらうような支援を心がけています。入浴を好まない方で、信頼関係のできている職員が対応して入浴につながった事例があります。菖蒲湯やゆず湯 森林浴入浴剤を利用して、利用者が季節を感じて入浴を楽しめるように工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠される利用者には、昼寝を取り入れリフレッシュして頂いています。 夜間、外光を気にされる利用者には遮光する工夫をし、安眠して頂けるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用については医療連携により指導を受けています。 誤薬がないよう日付、名前を個々に記入し必ず確認し服用して頂いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの利用者の得意とする事を把握し、ホーム内での役割を見出し生活におけるリハビリとなるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気に触れる事を重視し、近隣への散歩、ホーム敷地内（庭等）に出て気分転換を図って頂いています。 利用者と共に日帰り旅行等行い普段行けない所へ出かける支援も行っています。	本人の希望によって、近隣への散歩や商店街への買物に出かけています。 金銭管理は利用者自身が行っていますが、家族やあんしんさぽーと事業が管理されている方には、毎月収支報告をしています。利用者一人ひとりの希望を聞き、大衆演劇の鑑賞やホームの行事として日帰り旅行等を行っています。また、遠くへの散歩が難しい方は、ホームの建物の外へ出て外気浴を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に応じて金銭管理され、買い物など希望があれば同行し支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙のやり取りができるよう支援しています。 必要な場合は代筆等支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は陽の光が入り明るく静かで常に清潔であるよう心がけ、ソファを置きくつろげるよう場の提供をしています。 季節感を感じて頂けるよう、ひな祭り飾りや、季節の花や手作りカレンダーを利用者と作成し工夫しています。	利用者が日中過ごすことの多い居間は、職員の目が届きやすい作りになっています。職員は、利用者の動きを見て、さりげなく対応ができるようにそれぞれの配置に工夫し、支援しています。共有スペースとして利用者自身が書いた絵や習字の文字を飾って、利用者が自分の居場所として過ごせるように工夫をしています。居間の室温は常時25度に設定し、本人の健康状態や体調に応じ、利用者一人ひとりに配慮した支援を心掛けています。日当たりの良い庭には、菜園を作り野菜や草花を育てています。居室の窓側でゴーヤのカーテンを育てている利用者もいます。洗濯物を干すスペースやベンチを置き、利用者が外気に触れる機会を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の心身の変化や気の合う利用者同士で過ごせるよう工夫しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みの物、仏壇なども置かれ以前住んでいた部屋の雰囲気を感じていただきながら過ごしていただけるよう支援しています。 家族様も利用者の居室でくつろいでいただけるよう支援しています。	居室にはベッド、クローゼット、エアコンは整備されています。空調温度調節は利用者が自由にしていますが、調整が難しい方には、職員が定期的に確認をし、季節に応じた室温で快適に過ごせるように支援をしています。仏壇、小タンス、チェアー、家族の写真等を持ち込んでいる方がいます。テレビはほとんどの利用者が持ち込み、居室で寛いで自由に視聴できるようにし、居心地のよいスペースが保てるように支援しています。自作の折鶴を飾っている方もいます。職員は、季節ごとの衣服の入れ替えを家族と相談して行っていますが、本人の意向を聞き、一緒に手助けをしながら支援を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時・移動時の不安がないよう手すりの設置、トイレ、風呂なども安全に使用して頂けるよう配慮しています。		